

科学技術イノベーション予算戦略会議（第6回） 議事概要

1. 日時・場所 平成26年6月26日（木）11：00～12：00
於：中央合同庁舎第4号館共用第2特別会議室

2. 出席者 山本科学技術政策担当大臣（議長）
総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）
久間議員、小谷議員、中西議員、橋本議員、大西議員
内閣府 倉持政策統括官（副議長）、
森本審議官、中野審議官、山岸審議官
内閣官房 赤石日本経済再生総合事務局次長
警察庁 牛田長官官房技術審議官
総務省 武井大臣官房総括審議官
外務省 北野軍縮不拡散・科学部長
文部科学省 川上科学技術・学術政策局長
厚生労働省 三浦大臣官房技術総括審議官
農林水産省 雨宮農林水産技術会議事務局長
経済産業省 片瀬産業技術環境局長
国土交通省 森大臣官房技術総括審議官
環境省 鎌形大臣官房審議官（代理）
防衛省 外園大臣官房技術監

3. 概要

<開会>

冒頭、山本大臣から以下の挨拶があった。

(山本大臣)

予算戦略会議も6回目の開催となった。実質的な政策責任者である皆さんと協力して、毎回、科学技術振興費、科学技術関係予算全体の増額に向けて頑張っていく決意を新たにしている。

6月24日にCSTIの総合戦略2014が閣議決定され、同時に閣議決定された日本再興戦略と骨太方針においても科学技術イノベーションを強力に推進する方針が明記された。とにかくこれを確実に実行に移し、資源配分と直結したPDCAサイクルを確立すべく予算戦略会議での議論も加速させていきたい。特に、骨太方針において東京オリンピック・パラリンピックに向けた科学技術イノベーションの発信が入ったことは非常に大きなことである。下村大臣ともしっかりと連携して、その環境整備をしていきたい。

前回も申し上げたが、総理からも御指示があったように、SIPを継続的に力強く推進し、予算確保に向けて努力していくことを改めて強調する。その上で、27年度科学技術予算は総合戦略2014を踏まえて、SIPを課題解決の先導とするアクションプランによる政策誘導、甘利大臣からもご提言いただいたイノベーション・システム改革の推進等を重点化の柱として進めていきたい。

本日の議論を踏まえて、今夏にCSTI本会議で資源配分方針の議論を行い、取りまとめる予定である。

<議事>

- (1) 平成27年度科学技術関係予算の重点化等の進め方について
(内閣府から資料1、資料2に基づき説明の後、意見交換。)

<関係省庁の発言（ポイント）>

(経済産業省)

- SIPについては是非とも継続的に力強く実施いただくようお願いする。経産省としても全力を尽くしたい。経産省の最大のミッションとして、橋渡し機能として産総研やNEDOの改革を進めるとともに、ご説明にあった「相互作用」として、中堅・中小・ベンチャー企業や大企業のオープンイノベーション、さらには関係省庁、独法、大学が連携してTIAの強化をしっかりと進めていきたい。予算の重点化に当たっては、CSTIIにおいてしっかりヒアリングしていただき、重点化対象施策に位置づけてほしい。

(厚生労働省)

- 健康長寿、復興再生の分野で26年度アクションプランに特定された各施策を、27年度も重要視して取り組みたい。SIPでは「レジリエントな防災・減災機能の強化」に参画しているが、特に国民の安全を守る上で重要な災害医療の分野をしっかりと取り組みたい。オリンピック・パラリンピック関係では、既に障害者を対象とした機能支援機器等の技術研究を実施。自然災害、テロ対策等の危機管理分野も必要があれば新規プロジェクトとして提案したい。イノベーション環境創出に関して、任期制の不安定な状況で従事している若手研究者について、キャリアパスの観点から処遇改善等の対応が必要。

(日本経済再生総合事務局)

- 成長戦略の柱である司令塔機能を山本大臣のもとでしっかりと発揮いただいていることを高く評価。資料2のイノベーション環境創出は、今回成長戦略で極めて重要と位置づけ、その進展を定量化する仕掛けが必要と書かれている。例えば、民間資金、受託研究、大学との共同研究の規模、オープンイノベーションの実現度、ベンチャー支援の状況、事業化の進展、クロスアポイント制度の活用状況等について、各研究開発法人などにおける進捗が見えるような指標をCSTIIが示すよう検討してほしい。

(農林水産省)

- 総合戦略2014で農林水産業の成長産業化を重点課題と位置づけていただいたことに沿って、SIPと関連施策を含めてトータルで試験研究、技術開発に取り組みたい。再興戦略や活力創造プランの改定にも農業所得の倍増、食料自給力の向上等が盛り込まれたので、これも27年度予算に反映し、現場のシーズ・ニーズを把握しながら研究開発戦略を打ち出していきたい。オランダのフードバレーなどを参考に、産学官連携の場の構築や技術革新を加速する仕組みも検討していきたい。

(総務省)

- アクションプランのロードマップや行革本部との関係等を整理いただいたので、これをベースに27年度要求を固めていきたい。アクションプランにおいてICT関係は分野横断技術の中で充実化していくが、各政策課題やSIPへの関連づけもしっかりと取り組みたい。ICTは広い分野の共通基盤となり得るので、特定作業が効率的・効果的になるよう配慮いただきたい。オリンピック・パラリンピックに向けて、無料Wi-Fi基盤整備、自動音声翻訳技術の高度化等を準備しているので支援いただきたい。

(国土交通省)

- 総合戦略2014第2章の重点課題は、次世代インフラやクリーンエネルギーなど国交省と密接に関連するものが多いので、SIPとこれに関連するアクションプランに位置づけていただいて頑張りたい。アクションプランによる府省連携や成果検証は非常に重要だが、そのプロセスに若手の労働力が相当かかっており、省内の技術系人材育成の観点から、できる限り作業の効率化をお願いする。科学技術振興費の総枠拡大に向けて取り組んでいただきたい。オリンピック・パラリンピックでは、特にインフラや観光等で国交省は重要な役割を担っている。政府や東京都で様々なタスクフォース、会議体が立ち上がっているが、「船頭多くして」とならないよう連携を図っていただきたい。

(文部科学省)

- 山本大臣からの科学技術予算全体の拡充のご発言に感謝。改めてお願いしたい。資料1でSIPは27年度から新規課題や課題の入替えに取り組むとのこと、府省横断で一体的に推進する観点から、SIPの対象を総合戦略2014で取り上げた分野横断技術にも広げてほしい。例えばビッグデータは、総務省、経産省、厚労省と広い省庁にまたがって、それぞれの分野でデータをどう集め使っていか

取り組む中、共通部分に対する調整をCSTIが担い、その道具としてSIPを活用できるのではないか。資料2の研究開発法人改革関連では、来年4月から立ち上がる国立研究開発法人の新たな制度をうまく機能させ、研究開発法人をイノベーションのハブとして育成していくためには、各省がバラバラに取り組むのではなく、CSTIの力を発揮できる何らかの調整機能が必要。その観点から、橋渡し機能で民間資金を使うことも重要だが、それでも難しい部分はSIPの活用も考え得る。最後に、研究開発法人や大学において研究不正の問題が社会をにぎわす大きな課題。文科省として平成18年からガイドラインをつくっているが、その改訂作業が大詰めで近々パブコメに出すので、各省も参考にさせていただければ幸い。

(外務省)

- 科学技術外交の一環で、文科省・JSTと一緒に日米オープンフォーラムに取り組んでいる。昨年4月に山本大臣に御参加いただいたワシントンでの第1回に続き、7月に日本科学未来館で第2回を開催する予定。そこでは、資料2と関連するイノベーション創出のための人材育成もテーマに、日米の企業、大学も参加して議論する。その成果も活用できるよう連携して取り組んでいきたい。

(防衛省)

- 6月19日に防衛生産・技術基盤を維持・強化するための戦略を公表した。同戦略は、国家安全保障会議において、4大臣のほか文科大臣、経産大臣、財務大臣にもご出席いただいた上でご審議をいただいたものであり、デュアルユース技術を含む研究開発プログラムとの連携・活用も大きな政策課題として挙げている。SIPでは防衛省として特に革新的構造材料の具体的な出口戦略に注目をしており、積極的に参画していきたい。

(警察庁)

- 警察庁は研究部隊を持たないので自分では難しいが、オリンピック・パラリンピックでのテロ対策に関しては、ユーザーの立場から、各省の予算で実施されている成果を使いたいと思っている。例えば防犯カメラからテロ犯の自動識別、翻訳技術、爆発物の簡易な検知など、先進的な技術があれば、大会で導入できるよう計画をつくっていただきたい。

<山本大臣及び有識者議員の発言（ポイント）>

(山本大臣)

- SIPは動き始めたが、関係各省の協力で立ち上げることができ、今も積極的に関与いただいていることを改めて感謝したい。再生本部から司令塔機能強化を評価してもらったが、今後いかにCSTIを機能させて科学技術予算を増やすかが課題であるとする。甘利大臣にも後押しいただいて、予算戦略会議、SIP、ImPACT、特定国立研究開発法人の法案に取り組み、今回も成長戦略と骨太方針に科学技術イノベーションを十分に位置づけてもらった。これがもっと重視され予算の増額につながるよう、さらに甘利大臣にもお願いして、CSTIと産業競争力会議の連携、CSTIと経済財政諮問会議の連携をさらに強化したいと思っている。イノベーション環境整備の進展を定量的にチェックする仕組みは、韓国の未来創造科学省も具体的なデータで評価をしていることも参考に、CSTI民間議員の方々々と相談しながら指針の作成等を検討したい。アクションプランに若手の労働力がかかっている件は、やはり必要なので協力いただかなければならないが、効率的に作業できるよう工夫したい。オリンピック・パラリンピックに関しては、先日舩添知事に会って科技部局との連携を話してきた。各タスクフォースで連携できるよう意識していきたい。

(久間議員)

- ICTやナノテク等の分野横断技術はバラバラに取り組むと効率が悪いので、技術をプラットフォーム化して再利用する仕組みづくりが重要。重要課題専調の下のICT-WGとナノ材-WGには関係するSIPのPDIに入ってもらっており、例えば、ビッグデータ技術は次世代インフラやITSの分野で重要なので、その中で技術のプラットフォーム化を進めたい。TIAをよりよいイノベーションハブにすることは非常に重要。今年から様々な研究機関や技術分野でイノベーションハブ構想が出てくると思うので、TIAが模範的なモデルになるよう、TIA内での司令塔、責任者を明確にして進めてほしい。TIAはこれまで半導体プロセス技術者が多く、技術のボトムアップ的な色彩が強いが、システム側から見たトップダウン

も含む両方のアプローチが必要。デュアルユースは、技術を有効に使う観点で重要であり、防衛関係は画期的技術を生みやすい土壌があるので、SIPやImPACTにも考え方を取り入れていきたい。

(橋本議員)

- アクションプランでは昨年度から各省予算の大括り化を進めているが、今年はホチキス止めでなく本当に中身で連携しているかをしっかり見させていただくので、是非とも局長の皆さんから予算担当者の中身で連携するよう指示してほしい。総合戦略2014第3章は、甘利プランの骨格である橋渡し機能の強化や、産業界や大学等が集まる拠点に公的研究機関を使うことを明確にしており、非常に大きな玉。まず産総研とNEDOが先行的に行っていただくが、各省も力を入れていただきたい。若手研究者のキャリアパスをどうつくっていくかは大変重要で、あわせて研究マネジメント人材も研究者以上にキャリアパスがない状態。これも公的研究機関が核になって人材のキャリアパスをつくるような改革を第3章で明確にしており、研究資金制度の再構築と絡めて大変重要な課題。各府省の取組をしっかりと見させていただくので、是非ともよろしく願います。

(大西議員)

- 若手人材の育成は長期的に見て非常に大事な問題。大学では新しい仕組みが出てきており、例えば特任のポストで研究に参加する若手世代の人数は増えているが、その先が萎んでいくので不安感がある。色々なところで若手人材を雇い、次々と発展的に勤務し研究者として一人前になっていくルート構築が必要。例えば各省庁の研究開発計画を実行する研究者を幅広くリクルートしたり、国の研究機関に色々な形態で若手研究者を雇って一定期間キャリア積んでもらうなど、若手人材をうまく育成する仕組みをつくっていただきたい。

(小谷議員)

- 総合戦略2014の第3章では今回、多様な人材と挑戦の機会の拡大を明確に打ち出している。これに取り組むには、どういう人材がどこにどれぐらいの比率で必要であるか、それが長期的にどのように発展していくか、というグランドデザインがまず必要。その中で、どういう仕組みをつくれれば実装に向かっていくかということ。いきなりグランドデザインは難しいと思うので、まずは若手、女性、マネジメント人材が将来に夢を描けるような、輝かしいリーダーのロールモデルをまずつくっていただきたい。

(中西議員)

- オープンイノベーションを本物にしないと、安倍内閣発足後1年半経った今の日本の前向きな雰囲気の本格化することはできない。そのために今回設定している各府省の予算の組み立て方、大きな枠組み変更が非常に重要であることを、この会議でも今後も繰返し強調させていただきたい。

(2) その他

(内閣府から以下について事務連絡)

- 本日議論された平成27年度科学技術関係予算の重点化等の進め方をもとに、今後、科学技術政策担当大臣と有識者議員において平成27年度資源配分方針の検討を進め、今夏のCSTI本会議において審議いただく予定。

以上